

市政の最近のできごとを紹介します。



地元企業が西部丘陵東地区に進出

西部丘陵東地区に進出が決定した岩塚製菓(株)と協定を締結。同地区はこれで全区画の進出企業が決まりました。同社は令和11年までに米菓工場を建設予定。雇用の創出と地域経済の活性化が期待されます。(7月28日)



パワエレ技術を大規模展示会でPR

電気を変換する技術「パワーエレクトロニクス」とその関連分野のアジア最大級の展示会「TECHNO-FRONTIER」に市などからなる研究会が出席。世界に誇る長岡技大の技術や市の魅力をラジオ公開収録などでPRしました。(7月23日)



ホノルルとの平和の絆、さらに強く

戦後80年の節目に合わせ、姉妹都市・ホノルル市の広報担当官ら9人が長岡を訪問。山本五十六記念館などを見学しました。訪問団は磯田市長との懇談も行い、今後も平和交流を続けていくことを誓い合いました。(8月2日)



誰もがスポーツを楽しめる地域へ

気軽にスポーツに関わる人を増やそうと、ユニバーサルスポーツ研修会を初開催しました。地域で活動するスポーツ推進委員36人が参加。ボッチャや輪投げなどを体験し、スポーツが持つ多様な魅力に触れました。(8月17日)

想いを夜空へ 20年目の“フェニックス”

2日間で延べ34万人が訪れた長岡まつり大花火大会。名物花火の一つである「復興祈願花火フェニックス」が20周年を迎えました。

平成16年に発生した中越大震災からの復興を願い、その翌年から打ち上げが始まった“フェニックス”。全長約2キロに渡り、不死鳥をイメージした花火が夜空に羽ばたきます。今年は冒頭に白一色の花輪の花が咲き、会場から驚きの声が上がりました **1** **2**。

大会終了後には、今年88歳の米寿を迎える長生橋の上空に500機のドローンが登場 **3**。「長岡花火」などの輝く光のメッセージで観客を見送りました。(8月2日・3日)



業務の見える化で課題がより明確に

(株)マルシャン
代表取締役 鷺尾達雄さん(左)
常務執行役員 福崎駿也さん

DXにチャレンジしようと思った時、まず何をしたらいいか分かりませんでした。そこで、長岡商工会議所に相談し、DXセンターのサポートを受けました。業務フローが可視化されたことで、自社の課題が明確になり、取り組むべきことのイメージがはっきりしました。DXセンターを通して得られた具体的な提案を基に、今後新たなシステム導入などの業務改革を本格化する予定です。業務の属人化が解消され、社員もDXの効果を実感できるのではないかと期待しています。

市と長岡商工会議所、日本精機グループの官民連携により昨年8月にオープンした「ながおかDXセンター」。ITに精通した専門スタッフが常駐し、市内企業や団体の業務のデジタル化・DXをサポートしています。同センターでは、業務手順を整理して、相談者それぞれに合った改善策を提案しており、これまでに20件の相談に対応。業務の効率化や経営体制の強化に向け、きめ細かくフォローしています。「業務を見直したい」「DXを進めたい」といふときは同センターにご相談ください。

相談無料！気軽にお問い合わせください

開設日時＝平日午前10時～午後5時 ※ゴールデンウィーク・お盆・年末年始期間は別途お問い合わせください 場所＝ミライエ長岡6階 図ながおかDXセンター ☎080・4111・8103 ▶詳しくはこちら



図DX政策課 ☎39・2205

ながおか花火館が高速道路の休憩地に

国は、高速道路から近くの道の駅に一時退出ができるようにする社会実験を行っています。これは高速道路の休憩施設の不足を解消するために進めているもので、現在、全国28カ所で実施されています。道の駅「ながおか花火館」も対象に選ばれ、9月10日から運用をスタート。県内では糸魚川市の事例に続き2カ所目です。県内外からの誘客が期待されるため、花火館を通じた長岡の魅力発信により一層取り組んでいきます。

9/10(水)から

国土木政策調整課 ☎39・2307 観光事業課 ☎39・2221

利用条件

- ETC2.0搭載車
- 長岡ICから降り、道の駅「ながおか花火館」に立ち寄り
- 2時間以内に長岡ICから同じ方向に再進入

▶降りずに利用した料金と同額に



▲詳しくはこちら



大人気シリーズ「アイドルマスター」のマンホールふたが花火館に登場

ゲームやアニメなどが人気の「アイドルマスター」シリーズのアイドル・浅倉透のマンホールふたが、花火館に設置されます。設置前には特別展示も。ぜひ現地でご覧ください。特別展示＝9月13日(土)～25日(木) 場所＝同館フードコート内 設置日＝9月26日(金) 図観光事業課



▲詳しくはこちら